



神奈川県

第45回「全日本中学生水の作文コンクール」

神奈川県優秀作文集



令和5年7月

「全日本中学生水の作文コンクール」について

「全日本中学生水の作文コンクール」は、次代を担う中学生の皆さんに、日常生活での体験あるいはご両親や先生方から学び聞いた話をもとに、水について考えていただくという趣旨で、昭和54年から「水の週間」の行事の一環として実施しています。

神奈川県では、平成19年度から新たに水源環境保全・再生施策の取組みがスタートしたことを機として、平成20年度から神奈川県独自の賞として水源環境賞を創設しました。

神奈川県内では125編の応募があり、神奈川県表彰として最優秀賞1編、優秀賞4編、入選3編及び水源環境賞3編を選定しました。

この11編について、このたび優秀作文集としてとりまとめました。いずれも、生活や学校での体験を通して、水について理解を深め、水を大切にしていこうとする中学生の皆さんの気持ちがよく表現されています。ぜひご一読ください。

第45回「全日本中学生水の作文コンクール」は、次のとおり行われました。

- 1 応募要領
 - ①テーマ…「水について考える」（題名は自由）
 - ②対象…令和5年度に神奈川県内在学の中学生
 - ③原稿枚数…400字詰原稿用紙4枚以内で日本語により表記された個人作品
 - ④あて先…神奈川県内の場合、神奈川県政策局政策部土地水資源対策課水政室
 - ⑤募集期間…令和5年3月1日～令和5年5月8日（必着）
 - ⑥著作権等…○応募作品の著作権は水循環政策本部、国土交通省及び神奈川県に帰属する。
○応募作品は自作の未発表のものに限る。
○応募作品の返却は行わない。

2 神奈川県内

応募状況

応募 学校数	応募 総数	学年別（編）		
		1年	2年	3年
7校	125編	64	39	22

3 審査

- (1) 都道府県審査 応募作品について神奈川県が審査を行い、神奈川県表彰として最優秀賞1編、優秀賞4編、入選3編及び水源環境賞3編を選定。最優秀賞及び優秀賞の計5編については、中央審査対象作文として国土交通省に推薦。
- (2) 中央審査 都道府県の地方審査を経た作文を対象に、中央審査会（国土交通省主催）で最優秀賞1編・優秀賞10編・入選29編を選定した。

「水の日」及び「水の週間」について

昭和52年5月31日 閣議了解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年8月1日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他の関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

水循環基本法（平成26年法律第16号）

第十条 国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、水の日を設ける。

2 水の日は、八月一日とする。

3 国及び地方公共団体は、水の日趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならない。

*表紙写真

「丹沢湖からの富士山」 山北町観光協会提供

目次

最優秀賞

継承 ……………

鎌倉市立岩瀬中学校二年 ……………

洪野七海

優秀賞

水害から人々の暮らしを守る工夫 ……………

聖園女学院中学校一年 ……………

植松舞花

おいしいお米を作るには ……………

聖園女学院中学校一年 ……………

大戸晶世

世界中の人々に水を ……………

秦野市立東中学校二年 ……………

小泉璃空

仮想水を通して見える食の危機 ……………

横浜市立栗田谷中学校三年 ……………

澤田悠雅

入選

雨からの学び ……………

聖園女学院中学校一年 ……………

小野澤彩夏

私たちの大切な水 ……………

秦野市立大根中学校三年 ……………

鈴木愛琳

節水とSDGs ……………

秦野市立東中学校二年 ……………

武富理緒

水源環境賞

宮ヶ瀬ダムと私の生活 ……………

聖園女学院中学校一年 ……………

石川千暖

「みんなのお水」 ……………

秦野市立東中学校二年 ……………

フジタ美怜菜 さくらら子

もしも水がなくなったら ……………

聖園女学院中学校一年 ……………

山本智尋

継承

鎌倉市立岩瀬中学校

二年 浜野 七海

人間の体の六十パーセントは水できている。人間にとっていかに水が大切かということが分かる。地球にはたくさん水がある。広大な海は、地球表面の七十パーセント以上を覆っている。その水の約九十七パーセントが海水で、地表水は約二パーセントしかない。しかも地表水のほとんどは氷で、人間が水資源として利用している河川水などはそのうちのわずか0.00三パーセントなのだ。

世界百九十六カ国の内、たったの十二カ国しか水道水は飲めないという。先月まで住んでいたベトナムで衝撃を受けたニュースがあった。川の水で溶いたミルクを飲んだ生後三カ月の乳児が寄生虫に感染し、ショック状態に陥る事件が発生したのだ。幸いその子は治療の甲斐あ

って回復した。日本に帰って驚いたのは、小さな川できえ透き通った水が流れていることだった。もし日本の川の水でミルクを作っていたら、そこまでのひどい状態にはならなかったのではないかと考えた。ベトナムでは水道水も飲むことができないのだ。七年海外にいた私には「水道水が飲めない」ということは当たり前だった。だから、夏休みに祖母の家に戻った時、みんなが水道水を飲んでいて驚いた。日本の水道水は世界のトップレベルを誇るのだ。水道水の基準は高く、だからこそ私たちは安全に飲むことができる。

では世界の水はどうだろうか。日本では、「飲み水に困る」ということはあまり考えられないが、世界では水不足問題が深刻化し、当たり前前に清潔で安全な水が確保できない地域が少なくない。水不足が原因で紛争が起これる場合もあり、今、世界の水不足問題の解決が急がれている。

意外と思われるかもしれないが、日本は世界一の水の輸入国である。当然、単に水を輸入しているだけではない。日本は、海外から農産物をはじめ、工業製品、木材などを輸入している。その輸入品を通して、日本は大量

の水を輸入していることになるのだ。例えば、小麦一口を収穫するためには約千リットルの水が必要になる。つまり、食料を輸入するということは、水を輸入していることと同じことになるのだ。日本は水が豊富だから水資源問題とは無縁と考えがちだが、食料を輸入している限り世界の水不足の影響は必ず受ける。だからこそ、私たちはもっと水の大切さを理解し、自分の国のことだけでなく、世界の問題についても目を向けていくことが重要なのだ。

日本の水に対する技術も優秀で、世界中の新興国へ技術を指導している企業がたくさんある。ベトナムでは日本の各水道局が各市や省の水道会社と技術交流し、サポートしている。昨年私がベトナムで社会科見学に行った日本の有名食品会社は製品を作る時に川の水を利用し、不要になった水を綺麗にしてから川に流す。という活動をしていて私は感銘を受けた。このように、たった0.00三パーセントの水の大切さを理解して、水を綺麗にする活動をしている人たちが世界中にたくさんいることを知った。私はその人たちをとっても誇りに思うと共に、私にも何かできることがあるれば水のことだけでなく、環

境のことなど、身近なものからでも地球に貢献できることをしたいなと思った。

前に述べたように、日本にはたくさん綺麗な川が流れている。たとえ水が綺麗でも、そこにゴミがあったら、勿体無い。だから、私たちがすべきことはまずひとつ。ポイ捨てをせずにゴミを捨てる場所に捨てること。環境に良いことをすると、私たちにも綺麗な水が届く。世界はいつだって循環しているのだ。未来の子供達のために綺麗な水を守り、継がないでゆく、これは今子供である私たちの使命だと思う。

水害から人々の暮らしを守る工夫

聖園女学院中学校

一年 植松 舞花

私は今回、水に関しての二つの経験から知ったことや感じたこと、そしてそれらについて自分なりに調べ、学んだことをまとめた。

一つ目は、遊水地についてである。遊水地とは河川堤防の一部区間を低くしておき、そこからあふれた洪水を溜め、地域への水害の被害を軽減させるためにつくられた池のことである。私は藤沢市に住んでおり、小さい頃から公園が好きで毎週のように家族に「引地川親水公園」に連れて行ってもらった。この公園は、子ども達に川に親しんでもらおうと引地川沿いに造られ、湿性植物や桜並木、芝生広場などがあり家族でゆっくり楽しめる。四季折々の植物や昆虫、野鳥も観察でき、川では鯉が優雅に泳ぎ、空を見上げるとカモメがたくさん飛んでくる。

私はこんな自然あふれる公園の景色を見て、毎回いやさされている。そしてある時ふと、次のような心配事が浮かんだ。大雨が降った後に引地川の水位が上がり、この公園や周辺に水害の心配はないのかと。そのことを父に聞くと、「この公園には遊水地があるから大丈夫だよ。」と教えてくれた。このことを思い出し今回詳しく調べてみると、私たちがいつも止めている駐車場とそのとなりにあるサッカー場が、全体で約二十八万立方メートルも水をためることができる遊水地であることがわかった。その遊水地に実際に水がたまった様子を見たことはないが、洪水時の写真を見ると駐車場やサッカーゴールは大量の水で見えなくなっており、辺りは一変していて驚いた。つまり普段は私たちが便利に使える土地が、洪水時には遊水地としての役目を果たす土地へと変わる。とても効果的な土地の使い方であると思い、感心した。この遊水地は、昭和五十八年から平成五年までの約十年間かけて作られたということから大変な取り組みであったことがわかり、まわりの人にも伝えていきたいと思った。

二つ目は、「雨水貯留管」についてである。これは、大雨が降った時に道路や家にあふれないように、一

時的に水を貯めておくものである。この貯留管の存在は、母の体験談から知った。石名坂善行線という道路は急坂で囲まれている、大雨の日には道路に水がたまることしばしばあった。母が自転車で通ったその日は大変な大雨で、自転車のタイヤがかなり水に沈むほどだった。恐る恐る自転車で走行していた母であったが、隣を通る車が跳ね上げた大量の水が次々と勢いよく全身にかかり、恐怖を覚えたというのだ。しかし今はこの道路の地下に「山野神雨水貯留管」が作られたおかげで、私は今まで一度もこの道路が水であふれているのを見たことがない。これは地下二十メートル程の深さにあり、長さは五九六メートル、そして約三〇〇トンもの量の雨水を蓄えることができる優れたものである。藤沢市は「雨に強いまちづくり」推進のため、雨水管整備や治水安全度の向上などに取り組む「湘南ふじさわ下水道ビジョン」を二〇一一年に策定し、請負金額約十六億円をかけたこの工事はその一環である。これを機に、市内に整備されている他の貯留管についても調べたり、実際に行ってみたりしたい。

今回「水」について自分なりに調べ考えることができ、

よい学びとなった。水は人類が生きるために不可欠であり、またいやしの効果もある大変貴重なものだ。私たちがこの貴重な水を守っていくためにすべきことは数多くあるが、私は節水をすること、食器の油分を拭き、なるべくきれいな状態で排水して水を汚さないことを常に心がけて過ごしている。

私たちが日々きれいな水を飲み、使用し、水害の心配なく過ごせていることはけっしてあたりまえではない。人々の暮らしを守るために、綿密な計画を立て、工事を行ってくださる方々が数多くいらっしゃることを改めて感じた。感謝の気持ちを持ち、自分にできる水の取り組みを考え、継続していきたい。

おいしいお米を作るには

聖園女学院中学校

一年 大戸 晶世

私の通っていた小学校は、田んぼに囲まれています。そのため、五年生の時には田植えの授業がありました。その時、地域の農家さんにこんなことを教えていただきました。

「お米作りには、きれいなお水が必要です。お米の稲は、毎日たくさんのお水を吸います。だから、そのお水のきれいさでお米の味は変わってくるのです。」

小学校の田植えの授業では、実際の田んぼでみんなが並んで手で植えました。地域の農家さんに教えてもらいながら、学年全員で協力してお米を育てます。収穫も自分たちで行いました。その頃には、学校の周りは見渡す限り黄金色になります。でも、こんなに田んぼがあつてどのくらいの量のお水を使うのだろう、と思いました。

学校の近くには、きれいな川が流れています。その川から田んぼにお水を引いているのですが、お水が無くなってしまわないかと不安になってしまうほどの数の田んぼがあります。そこで、一枚の田んぼに使う水の量を計算してみると、その結果は百トンにもなりました。

それが五十枚以上は確実にあります。学校のある地域は、千トン以上の水が必要になります。学校のある地域は、梅雨の時期に水が入るので水が足りないことはないと思います。でも、五千トンは、想像も出来ないほどの大きな数字でもおどろきました。

しかし時々、田んぼへ流れていくであろう水路の水にごみが入っていたり、田んぼにプラスチックが浮かんだりしているのを見かけます。そのお水で地域のおいしいお米をつくっているのに、と思うと悲しくなります。ごみが増えるとおいしいお米もつくれなくなるし、海の魚や川も汚れる原因になり、日本の伝統食、和食は、なにもなくなってしまう。お米も、お魚も、おみそ汁も、つけ物の元のお野菜も、きれいなお水があるからこそおいしく育つのですから。料理は、つくる人だけがらんばってもおいしくはなりません。農家さんやその地域

にすむ人たちも関わっているし、お水は川や海で世界とつながっています。つまり、おいしい料理は世界中でつくるのです。その料理は、私たち人間の栄養になります。すべてを総合して考えると、水をきれいに大切にすることは、我々人間の体を大切にすることにつながるのです。一人一人がポイ捨てをしないようにするだけで、世界中の人の健康が守られるのです。逆に、一人の「まあいいや」が世界の健康をゆるがしかねない、ということですよ。おいしいお米も、お魚も、人々の健康も、世界中の一人一人がつくっていく。そのことに気付いた時、私はこの小学校の周りの豊かな自然、川のきれいな水を大切にしたいと思いました。大きなことはしなくても、ごみはしっかりと分別してごみ箱に捨てよう、そういう意識をもつだけで世界中の自然が守られるのではないかと思えます。時々、私は小学校時代の友達と地域の公園のごみ拾いをします。その公園には、まだベビーカーの赤ちゃんも、おじいちゃんおばあちゃんも、みんな遊んだりおしゃべりしたりしにきます。私たちもよく遊びにいきます。でも、大人たちがお酒のびんを捨てていたり、タバコのすいながら落ちていたりして、あまりきれいとはいえない

い状況です。公園の近くには大きな川があるので、ゴミは風にとばされて川におちてしまいます。捨てた人は、世界中の人の健康に影響するとは考えていないでしょう。でも、みんながそのことを意識するようになる、公園も川もきれいになると思います。

私はこれからも、水を大切に使うていきたいと思っています。そして、世界中の人がきれいな水を使えるようになるために、地域みんなと豊かな自然を守っていきたいと思います。

世界中の人々に水を

秦野市立東中学校

二年 小泉 璃空

あなたは、水についてどう思いますか。

僕が思う水は、蛇口をひねればすぐ出てくるものだと思います。風呂やトイレ、料理をするにも水は必要です。洗濯や掃除も水がなければできません。学校生活では、給食やプール、美術の時間の絵の具、花壇の水やりやスプリンクラーも水がなければ使えません。水について考えた時、あたり前のことですが、僕達は水がないと生活していけないのだなと思いました。

この生活に必要な不可欠な水が急に使えなくなってしまう時、どうなってしまふのだろうとも考えました。テレビで、アフリカやインドなどでは、水不足が深刻化しているというのを見たことがあります。僕達は、水道か

らいつでも安全な飲み水を飲むことができますが、アフリカなどでは、安全な飲み水を確保することが非常に困難なのだそうです。都心から離れた農村地帯などでは、子供達が往復六時間もかけて、危険な場所に水をくみに行くというのを見て、とても驚きました。僕達が学校に行っている間、生きるために一生懸命、険しい道を何往復もして、重たい水をくみに行っているということを知って、いたたまれない気持ちになりました。そして、何より驚いたことは、苦勞してくみに行った水が安全ではないということでした。その水はひどく汚染されていて、僕達が飲む透明な水ではなく、すごく濁った水でした。生活に必要な水が、このように汚染されていても、この水を飲まないと生きていけません。それが命に関わるとしても、伝染病につながっていることを、知っていても飲むしかないのです。浄水処理が一切行われていない、川や池からくんだ不衛生な水を飲んで、様々な健康被害を引き起こし、抵抗力の弱い子供達が毎日、五千人以上も命を落としているというのを知って、この水不足の問題ができるだけ早く解決すればいいと思いました。

国連が採択したSDGsでは「二〇三〇年までに地球

上のすべての人が安全な水や下水衛生施設へのアクセスを可能にすること」を目標の一つに掲げているそうです。少しずつ、安全な水へのアクセスや衛生環境が徐々に向上し、改善もされてきたようですが、世界にはまだまだ安全な水が確保できずに、濁った水を生活全般に利用して暮らしている人々がたくさんいます。

農村地域の水環境を改善し、遠くまで水をくみに行かなくても近くで安心して飲める水が手に入れば、子供達も昼間は学校に通うことができます。教育を受けることで、水環境の改善に取り組むための知識や技術を学び、将来につながっていくのではないのでしょうか。

この問題は、決して簡単なものではありません。ですが、僕達にできることは、水を大切に扱うということではないでしょうか。蛇口の水を三十秒間出しっぱなしにすると、約六リットルもの水を使うことになるそうです。蛇口やシャワーの出しっぱなし、洗い物をする時の水の出しっぱなしに気を付け、節水できるところは節水し、水を大切にしていかなければいけないと思いました。

世界中の人が安心して、安全な水を飲むことができるよう、一刻も早く水環境を整え、少しでもSDGsの目

標に近付くことができるかと思っています。これからも、自分に出来ることを続けていこうと思います。

仮想水を通して見える食の危機

横浜市立栗田谷中学校

三年 澤田 悠雅

世界各国では様々な農作物や畜産物が生産されている。その食料は生産国だけで消費されるわけでなく、食料を自国の生産のみで賄えない国が輸入して消費していることは知っている人も多いだろう。私達が住んでいる日本もこれに該当する。これまで日本が毎年たくさんのお食料を輸入してきたのは、日本人口の増加、農家や農業従事者の減少などが原因にある。もちろん、日本の産業の衰退が懸念されていることも忘れてはいけませんが、ここからが水に関する問題なのだ。

皆さんは、「バーチャルウォーター」という言葉を知っているだろうか。これは、仮想水とも呼ばれ、実際に直接利用しているわけではないものの、間接的かつ目に見えない水のことだ。例えば1kgのとうもろこしを生

産するには約一二〇〇リットルの水が必要である。また、とうもろこしなどの穀物を飼料として消費する牛の飼育には、飼料を生産するのに必要とする水に加えて、牛そのものが消費する水も含まれる。このように、私達は食料を輸入するとき、実はたくさんのお水を目には見えない形で輸入している。これが目には見えない水、「バーチャルウォーター」である。

そして今、世界で水不足が深刻化していることをご存じだろうか。人口が予想よりも増え続け、水は飲料水だけでなく、農業や工業にも使われている。そのような中で日本人の多くが、日本は水不足ではないと思っているだろう。それは海外から食料を輸入すると同時に、大量のバーチャルウォーターを輸入しているためそう感じてしまうのだ。確かに、日本は世界平均の二倍の量の雨が降り、山などの様々な水資源に囲まれていると思ってしまう。しかし、実はその多くの水はそのまま河川に流れ出て海に行き、あるいは産業や工業の発達している日本の土地で汚染されている。食べ物のためにも水はとても大切で、貴重な資源だということに気づいただろうか。もちろん他の国々も同じことを思っているだろう。十年

後、二十年後にはさらに人口が増え、自分の国は水不足であり、食物を生産するための水を確保することが優先であると。

そこで、私達の普段食べている物を考えてみよう。そうすることで、改めて輸入品の多さが分かる。例えば、牛肉などの肉類、たまねぎ、にんじん、カボチャなどの野菜類も多く輸入されている。とうもろこし、大豆などもそうである。知らず知らずのうちに、私達は世界各国の水を使い、水不足の危険に晒されている国の大切な資源を食に使ってしまったているのだ。日本に食物を輸出している国々から見れば、日本は自国の水を使わずに食料を手に入れていたため、他の国々が自国のために輸出を止める可能性は、十分にあるのだ。日本の食卓が水不足により、もしくはバーチャルウォーターによる水の輸出が懸念された場合、こういった最悪の事態が起こってしまうのだ。

そのために私たちは、バーチャルウォーターを輸出する国に頼りすぎないことが求められている。また、日本の技術を生かしてきれいな水を作ることに協力することも重要だ。バーチャルウォーターを輸出する国に頼らな

い取り組みは個人であることができる。例えば、地産地消を進め、食料自給率を上げることや、食わずに捨てられてしまう食品を減らすことも水資源を守る取り組みとなる。

これからの日本の危機をバーチャルウォーターというものを通して実感し、個人単位で対策していくことで、私達の大切な水を守ることができる。水不足という大きな問題を決して他人事だと思わず、一人一人がしっかりと向き合い、私達の水問題を少しでも改善することが、日本の将来のために重要であると私は思う。

雨からの学び

聖園女学院中学校

一年 小野澤 彩夏

みなさんも幼いころ、ふと思ったことがあるでしょうか。「雨って、飲めるのかな。」

私は、小学生低学年のころ、雨が降るたびに毎回同じようなことを思っていました。

「雨って、飲めるのかな。」と友達に聞いてみると、「飲めるんじゃない。」と毎回同じ答えが返ってきました。また、雨が降っている時は毎回びしょびしょにぬれて帰りたいと思っていましたが、今はぬれたいと思いません。雨が降ると普段の生活に手間をかけることになるので多くの人は不快であると感じていると思います。しかし雨は私達人間にとって、必要不可欠な存在です。なぜなら水は私達の生命になくってはならない存在だからです。

小学生の頃に理科の授業で学習したことで、水は私達が思っている以上に汚染されていますが、森林土壌の働きにより水がきれいになり、そのおかげで私達はおいしいご飯や飲み物を得ることができています。今回は、そのことについて調べてみました。最初に、雨は工場や車などから出る色々なものが含まれているため汚染されています。しかし、森林土壌はこのような汚染物質を取り除き水質を浄化する働きがあります。森林の土壌はたくさんの細かい粒を含んでおり、その粒はマイナスの電気を持っています。一方、雨水に溶けこんでいる汚染物質の多くは、プラスの電気を持っています。汚染された雨水が森林の土壌を通るとき、マイナスの電気を持つ土の粒にプラスの電気を持つ汚染物質が引きつけられて取り除かれるため、雨水がきれいになるのです。この時リンや窒素などの富栄養化の原因となる物質は、土壌中のミネラル成分などがバランス良く溶け出すことにより、森林はおいしい水を作り出します。しかし森林土壌の機能が雨水をきれいにする働きには限界があり、これを越えた汚染物質が入ってくるとそれ以上水質浄化をすることが出来ません。そのため汚染物質を出さないようにする努

力が大切です。

浄化された雨水は川に流れダムや田んぼなどにめぐり私達生活と切りはなすことのできない大事なものです。雨水を浄化する森林の持つ機能、緑のダムの役割を最大限に利用していくためには、限界を越えないようにすること、また自然を守るという意識を持って生活をしていくことを忘れてはいけません。

最後に、私たち人類は神様から自然環境に関して課題を出されているのかもしれない。そして今この問題を見過ごしてしまったら取り返しつかないことになるのではないかと思えます。そのような状況にならないように、私は今、できる限りのことをしたいです。

私たちの大切な水

秦野市立大根中学校

三年 鈴木 愛琳

私は、秦野で生まれ小さい時から秦野の水が身近にありました。学校の授業などで秦野の水についてより深く知ったことで興味を持ち、水の大切さやありがたみについて考えてみました。

私は、秦野の水の魅力や美味しさに気づいたきっかけがあります。私が小学生の時、水の授業で学校の水道水と外国の水を飲み比べたことがありました。その時に外国の水よりも学校の水道水の方が美味しく水にも味の違いがあることを知り驚きました。いつも何気なく飲んでいるこの秦野の水の美味しさや安全性などのいいところがたくさんあることを知り、改めて秦野の良さを実感しました。

今年の夏休みに郷土の良さを伝えるというテーマの国

語の宿題で、私は秦野の水について調べました。秦野には「竜神の泉」や「弘法の清水」など、たくさん湧き水スポットがあることを初めて知りました。自然豊かで緑がたくさんある秦野は「名水の里秦野」とも呼ばれるほど秦野の水はその美味しさが自慢で平成二十八年三月には「名水百選選抜総選挙おいしさが素晴らしい名水部門」で全国一位に輝きました。その「おいしい秦野の水丹沢の雫」を実際に飲んでみました。味はとても飲みやすく、なめらかで美味しかったです。そのとき私は水が特に美味しい地域に住んでいてよかったと思いました。そして、これからも水を大切にしていきたいと強く思いました。

世界では、「日本のように安全な水が必要な時に家で利用できる人は二十一億人、このうち一億五千万人は池や河川、用水路などの水をそのまま使っている」とユニセフの資料に書いてありました。私たちが生きていくには水は欠かせません。それは人間だけでなく、植物や動物も水は不可欠です。日本では蛇口をひねれば、いつも安全で透明な水が出てきます。ですが、世界では家で水が利用できないどころか池や河川、用水路などの

水をそのまま使っていることに衝撃を受けました。それだけではなく、「毎日八百人もの子供が汚れた水や不衛生な環境が原因で命を落としている」とユニセフのサイトに載っていました。私は、この作文を書く前までこのような状況にある国々のことや、三月二十二日の国連が決めた世界水の日、また八月一日の節水呼びかけるために制定された水の日があることを私は知りませんでした。なのでこのことをきっかけにこの二つの日は特に水の大切さを改めて調べ、考えるきっかけとし、自分自身にできることを積極的に実行するようになりたいと思いました。

私は、蛇口をひねればきれいな水が出るのが当たり前だと思っていました。ですが、世界では私が想像していた以上に水に不自由を感じている方々がたくさんいるということを知りました。SDGsにもある安全な水とトイレを世界中にという課題の重要性を実感しSDGsの目標達成に向け、自分たちができることをしていきたいと思っています。そして、普段自由に使える水への感謝の気持ちを忘れずに、これからも大切に使用したいと思います。

節水とSDGs

秦野市立東中学校

二年 武富 理緒

最近ニュースなどで、節水という言葉をたまに聞きませんが、私は「節水って、なぜしなければならないのかな」「節水すると何が良いのかな」とふと思ったので、節水について調べてみようと思いました。

まず、節水をしたら何が良いのか調べました。

節水すると、水道代、電気代の節約や、CO₂の削減にもつながることが分かりました。

水道代の節約の事は、理解できましたが、電気代の節約やCO₂の削減につながるという事があまり分からなかったもので、さらに調べることにしました。

水道水を家庭に届けるために、浄水場、下水処理場、水供給するポンプなどで、たくさんの電気を使っています。小学校で、水道水を作るにはたくさんの手間がかか

っていることを思い出しました。色々な工程の時に電気が使われているという事が分かりました。CO₂の削減について調べると、日本の発電方法に関係があることが分かりました。日本では、火力が七六％、水力や、再生可能なエネルギーで一八％、原子力で六％の割合で電気が作られています。(二〇一九年の情報)日本の発電は、火力が半分以上なので、エネルギーを発生させるために必要な石炭や石油、天然ガスなどを燃やすことが、CO₂の発生につながるという事も分かりました。節水をする、電気の節約になるし、その電気を作るために発生するCO₂も削減できるという、メリットがあることが分かりました。

メリット以外に、節水する理由はなんだろう、なぜ節水って言うのだろうと考えたところ、SDGsにも水に関する目標があることを思い出しました。SDGsの六番目の目標に、「安全な水とトイレを世界中に」というものがあります。二〇三〇年までにすべての人々に安全で安価な飲料水を届けようや、ハフターゲットがあります。

世界中には日本のような清潔な水を使わず不衛生な水

を飲んだりしている子供たちがたくさんいます。それにより、感染症や下り、はいたりして脱水症状になり、最悪命を落とすこともあります。

私たちは、このような子供たちも今現在もこの地球上にいたりことや、水の大切さをもっと知り、無駄に使うことがないように、心がけるようにしなければならぬと思います。

節水する方法は、難しくなく、誰でも心がけ次第で出来ます。

例えば、洗濯する時は、風呂の残り湯で洗濯する、洗車はバケツを使う、食器や野菜はため洗い、トイレは大小の使い分けをしっかりとる、歯ブラシの時のうがいは、コップを使う、などです。

これまで色々調べた結果、世界にはたくさん水不足で困っている人がいることが分かりました。もし自分の国が水不足になったら、もし世界中が水不足になって干からびてしまったらなど、これからの未来を考えると、世界中の水不足の人を救うような気持ちでいたらたくさん節水が出来るような気がしました。

私もこれからもっと世界中の水不足問題などについて

考えながら節水を行いたいと思います。この世界の水不足で困っている人が0人になるように、これからも努力していきたいと思います。

皆さんも、普段からの節水への意識や身の回りのちょっとした事から節水を心がけて行きましょう。

宮ヶ瀬ダムと私の生活

聖園女学院中学校

一年 石川 千暖

私は小学四年生の時に校外学習で宮ヶ瀬ダムに行ったことがあります。私は生まれて初めてダムを見たので、とても大きくて迫力がありびっくりしたことが、大きなつり橋を渡ったり、友達と走り回ったりした事しか覚えておらず、ダムにどのような役割があるのか、自分の生活とどの様な関係があるのか考えることはありませんでした。そこで今回改めてダムについて考えてみました。

まず、そもそもなぜ「ダム」があるのか調べてみました。ダムをつくる目的として「治水」と「利水」に分かれます。治水とは、台風など大雨で洪水が発生したとき、その一部をダムに貯留し、ダムから下流に流れる川の水を減少させることで、下流の洪水被害を軽減するもので、洪水調節というそうです。利水とは、ダムに貯留された

水を、発電、飲料水、かんがい、工業用水などに利用することです。河川の水量は、流域の雨の状況によって増減し、小雨の場合は、水が不足する恐れがあるため、ダムに貯めた水を利用して安定して水を使うことができるそうです。このことを調べている時に、令和元年に発生した台風十九号のことを思い出しました。私が住んでいる平塚市と茅ヶ崎市との間に流れている相模川が大雨により氾濫する可能性があり、その様子をテレビで見ていると、怖かったことを覚えています。実際の被害として、床下浸水や道路の冠水などがあったそうですが、人的被害はなかったそうです。この時、被害が広まらずに済んだのは、まさに宮ヶ瀬ダムのおかげだったのです。もし、宮ヶ瀬ダムがなかったら被害は想像もできないほど拡大していたかもしれませぬ。

では、なぜ宮ヶ瀬ダムをつくったのでしょうか。理由の一つとして相模川の氾濫の防止があったそうです。相模川は度々大きな氾濫があり、周辺住民の生活を脅かしてきましたが、宮ヶ瀬ダムが水量を調節することで安心して生活することができています。また、もう一つの安心として、不自由なく水を使うことができます。

人口増加と産業発展による水需要の増加にも対応でき
おり、平成十三年以降、宮ヶ瀬ダムと他のダムの運用に
より相模川水系では渇水の発生はしていません。私の知
らないところで宮ヶ瀬ダムに助けられていたのだと分か
りました。

今回、宮ヶ瀬ダムの事を調べている中で一番驚いた事
は、ダムを建設するにあたり二八一世帯の方々が移転を
余儀なくされたそうです。水源の確保や防災のためとは
言え、自分の生まれ育った家を失うことは悲しいこと
です。それでもダム建設の意味を理解してくれたことで、
今の私たちの生活が成り立っていると思えます。これか
らは様々な人たちの協力のもと、安心な水が飲んでいる
ことに感謝し、生活をしていきたいです。

「みんなのお水」

秦野市立東中学校

二年 フジタ 美怜 楽 さくら子

飲み水やお風呂など私たちが毎日つかっている「水」私たちがあたりまえのように使っている水ですが、私たちがつかう「水」はどこから生まれてくるのでしょうか。

「水」は、雨や雪として「大地」にふり山の一番高いところを境として低いところへ流れ川となってどんどんあつまっていきます。この水があつまるはん囲を「流域」と言います。私たちはこうしてあつまった水を「日常」でつかいそして、つかった水はまた流れどんどん下って海に流れこみ、太陽に熱され水蒸気となって雲になり、その水はまた、雨や雪として大地にふり注ぎ地中にしみこんだり、川となって流れたりしながらぐるぐる回るとくりかえして、また私たちがつかう「水」となるのです。これを「水循環」といい、水はつねに形をかえてめぐ

っているのです。

日本の雨や雪のふる量は世界平均と比べて約1.6倍、とても水の量が多い国だと思われがちなのですが、日本の国土はせまく川は短く急で、すぐに海に流れでてしまいます。そのうえ人口が多いため、一人がつかえる水の量は世界平均と比べて「二分の一」程度。そのため日本では、水のめぐみに感謝し、水を上手につかう工夫をして水と付き合ってきました。

例えば、ダムは川の上流で水をため、雨が少ない時期に流すことによって私たちがいつでも水がつかえるようにしています。田んぼはイネをそだてるために水をためますが、実は、地下に水をしみこませたり、森林と同じようにすぐに流れ出してしまう水を大地にとどめたりする効果があります。また、水道や下水は、私たちが安全で安心な水をつかえ、つかった水をキレイにして川や海へもどすことで、「水循環」をくずさない工夫をしているのです。

このように水と人は手を取り合って上手にバランスを取ってきました。しかし「水循環」が崩れると様々なトラブルがおこってしまうのです。では、そのトラブルと

はどんなことでしょうか、例えば田畑がビルや家、道路などになると、地面にしみこむ水がへって大雨の時にあふれたり、水の流れがかわってしまったり・・・気候変動による天気の変化で気温や雨のふり方が変わってしまったり・・・

水を使うためのダムや水道などがふるくなり、直す施設が増えてきて、さらに人口がへってしまくと、支えきれなくなってしまうのです。

そんな風に、私たちと水のかかり方がかわって「水循環」のバランスがくずれてしまうとどうなるのでしょうか。

「水」は、地球上の限りある資源であり、生物の命を育み、私たちの生活や産業に不可欠な「基本要素」です。また大気から大地、川等を経て海域に向かう水の循環は川、地下水の水量の確保、水質の浄化、水辺環境や生態系の保全に大きな役割を果たしてくれます。

水は私たちの生活に欠かせないものです。これからもキレイでゆたかな水をつかい続けるため、あなたが「水循環」についてできることを考えてみましょう。

もしも水がなくなったら

聖園女学院中学校

一年 山本 智尋

みなさんは「水」についてどのように考えていますか？そう尋ねると多くの人が「考えたことがなかった」や、「あって当たりまえだと思っている」と答えると思います。このように日本人が「水」を軽視し続けることは日本の危機だと思えます。

私は、一時期よくテレビで天然水の宣伝が流れているのをよく見かけました。その時は、ずっと水は尽きないものだと思っていました。が、どうもそうはいかないようです。

そもそもなぜ日本人は「水」を軽く考えてしまうのでしょうか。私は原因は二つあると思います。一つは日本は水源が豊富だからです。驚いたことに、日本には湧き水が全国に約一六〇四六個もあり、各都道府県に必ず十

個以上は湧き水があることがわかっています。もう一つ原因として考えられるのは、日本は水道水を飲むことができるからです。水道水が飲めるのは、なんと世界一六カ国のなかで十二カ国しかないのです。日本はその十ニカ国の中の一つに入っています。そのため水道水が飲めるのが当たりまえだと思っています。

このようなことから私は、日本人が「水」について軽く考えてしまっていると思います。

ここまでは日本についての話でしたが、神奈川県も例外ではありません。神奈川県には湧き水が約六三二個もあり、これは全国で七位にあたる数です。そしてその湧き水がある場所の多くが秦野市や南足柄市にあり、どちらの場所にもまわりに森林があります。そこで問題となってくるのが外国資本の土地買収です。近年、海外からの土地の買収が増えています。その「土地」にあるのは湧き水がある森林です。森林を買収した理由も「湧き水」が目当てだと思えます。いままでも神奈川県箱根町で二件、外国からの森林買収がありました。神奈川県は湧き水がどんどん奪われていってしまうのも時間の問題なのです。とはいえ、「そんなの都市伝説でしょ？」と思

うかもしれません。しかし、いまから十年以上も前にはすでに土地買収は始まってしまっていたのです。

例えば、二〇一〇年に北海道では森林の買収状況の調査が行われました。すると、道内の私有林七か所、計四〇六ヘクタールがすでに外国資本に買われてしまっていたのです。四〇六ヘクタールということは、野球グラウンドが約四〇六個分もの大きさです。これだけの大きさの森林が買われてしまっていたのです。場所は、倶知安町とニセコ町が各二件、砂川市、蘭越町、日高町が各一件。合計で七件も買われてしまっていました。利用目的は、資産保有、牧草地用などで、水目的とはされていませんでした。しかし、このとき北海道議会が政府に提出した意見書には、「我が国における現行の土地制度は、近年急速に進行している世界規模での国土や水資源の争奪に対して無力であると言わざるをえない。」と書かれています。そこで疑問なのは、なぜ北海道議会は「土地を買われた」ことを「水資源の争奪」と書いたのかです。実は、森林を取得した場合、法的規制がかかっていなければ、所有者は自由に開発できるのです。もちろん地下水を汲み上げることもできます。法的には土地の所有者

に、その地下にある水の利用権があると解釈されているのです。それらのことから北海道議会は、「土地を買われた」ではなく、「水資源の争奪」と書いたのだと思われれます。

これからも水を「当たり前」に使っていけるように、「水」についてあまり軽視せず、日本人一人一人が水について考えていく必要があると思います。そのためにも「気づいてから」ではなく、「気づく前」から行動できるように、まわりにも呼びかけ、自分も水に関心をもっていきたいです。

第45回「全日本中学生水の作文コンクール」
神奈川県優秀作文集

発行 : 令和5年7月
発行元 : 神奈川県政策局政策部土地水資源対策課水政室
電話 (045)285-0049(直通)



神奈川県

政策局政策部土地水資源対策課水政室 水政グループ

横浜市中区日本大通1 〒231-8588 電話(045)285-0049 (直通)